



2021年8月 診療カレンダー

住所：東京都中央区日本橋大伝馬町13-8
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階
TEL: 03-3639-3110 FAX: 03-3639-3112

2021年9月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	

一般外来	9:30-12:00	16:00-19:00
発熱外来	12:00-13:00	15:30-16:00

休診日 午後休診 18時最終受付

日	月	火	水	木	金	土
	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	



ホームページ
院長ブログ公開中

残暑お見舞い
申し上げます



「今月の言葉」
「オリンピックは、勝つことではなく参加することにこそ意義がある」
L'important, c'est de participer
～エセルバート・タルボット大主教(Ethelbert Talbot)～
クーベルタン男爵引用

お知らせ
新型コロナワクチンの個別接種については
ホームページをご覧ください
・予約専用電話 050-3181-2565 (←変更しました)
平日(月～金) 10時～13時

ピクトグラム

前代未聞のすったもんだを経て、多くの困難を抱えながら開催が決まった、このたびの東京2020大会。ほぼ無観客という異例中の異例の大会となりましたが、17日間のオリンピックの熱戦では連日のようにドラマが生まれ、日本代表選手の活躍も目立ち、皆さまもテレビでの応援に熱が入ったのではないのでしょうか。

柔道や卓球、フェンシングの金メダル獲得など個々の競技についてはいずれブログでお話する予定です。今回は開会式の演出のひとつを取りあげたいと思います。今回の東京2020大会、開会式をご覧になられた皆さんは、どの演出が印象に残っていますか？私は人間ピクトグラムとドローンによる演出に大興奮でした。

開会式ではNHKアナウンサーも触れておりましたが、現代のピクトグラムは1964年の前回の東京オリンピックがはじまりだそうです。前回の東京オリンピックはアルファベットを使用しない国での初めての開催ということで、日本人と、海外からの多くの来訪者の両方に、施設や設備を理解してもらうための視覚的な工夫が求められたことから作られたそうです。美術評論家であった勝見勝さんは、日本の家紋に着想を得て、シンボルを用いてこれらを表現しようと当時、新進気鋭のデザイナーたちに声を掛け、合計39種類のピクトグラムを作りあげました。これが現代のピクトグラムの発祥です。いまやどこでも目にする男女のトイレのマークをはじめとした施設シンボルや陸上競技や体操競技などの競技シンボルもこのとき考案されました。

着目すべきはこのピクトグラムのデザインに関わった全員が著作権を放棄したことです。それによりピクトグラムは全世界に広まり、次の1968年のメキシコ・オリンピックでも採用され、ピクトグラムの「国際リレー」が生まれたのです。

1964年の東京大会から2016年のリオ・デジャネイロ大会まですべてのピクトグラムを見ましたが、ピクトグラムにもその国々の特徴がユニークに表れており、とても興味深かったです。例えばバルセロナオリンピックのピクトグラムは曲線で描かれているため、スペインの巨匠ピカソを思い起こすものですし、北京オリンピックのピクトグラムは象形文字のような篆書体(てんしょたい)を連想するデザインでした。ピクトグラムの本質は誰がみても分かりやすいこと、シンプルなことでしょう。

色はせいぜい2色、造形は無駄をそぎ落としたデザインとなっています。このようなシンプルな美しさは我々日本人の得意とするところのような気がします。海外でも大人気のユニクロや無印良品、パルミュージアなどの商品を見ても、シンプルな美しさが際立つデザインが多いと思います。

ところで今回のピクトグラムを受けて、下のようなアレンジが考案されているようです。元々ピクトグラムの趣旨は文字がなくても、見れば誰もが分かるというものです。これらのピクトグラムは、子育てを体験した人にはわかるという限定的なものかもしれませんが、ユーモアと動きのあるピクトグラムに完成度の高さがうかがえます。



実は私もクリニックを開院する際にピクトグラムの使用を検討したことがあります。クリニックによっては診察室のドアに聴診器のマークを付けているところもあるようです。しかし、既成のピクトグラムはありませんし、素人がデザインできるような代物ではありません。またデザイナーに依頼して作ってももう余裕がありませんでした。唯一デザイナーにお願いしたのがクリニックのロゴマークです。コンペを実施し、応募があった120数件のなかから、広島在住のデザイナーKさんの作品に決めました。採用したロゴは1本の線から循環する心臓(ハート)をモチーフとして楕円の重なりにより、循環や鼓動というような正しく働く心臓の動きを連想できるような形となっており、和を意識したデザインを基調にひとに優しい印象のクリニックといったイメージも意識されています。単純な中に本質をついたデザインでありますし、カラーでも白黒で使用してもまったく違和感がありませんので、私はたいへん気に入っていて、大切にしています。

現代社会において情報はあふれかえり、ますます複雑化しています。物事の本質的な部分が見えづらくなっているなかで「無駄がそぎ落とされ」「誰にでも分かりやすい」というピクトグラムの精神は貴重な視点といえると思います。

文責 齋藤 幹

